

ISO/TC20「航空機および宇宙機」

第52回 東京国際会議報告

平成30年（2018年）10月11日および12日、ISO/TC20「航空機および宇宙機」技術委員会第52回国際会議が日本にて開催されたので、その概要を報告する。

1. はじめに

ISO（International Organization for Standardization、国際標準化機構）は、様々な重要技術分野において国際的な標準化や規格策定を推進するため1947年に設立された162ヶ国が参加する国際機関であり、スイスのジュネーブに本部を置き、243のTC（Technical Committee、技術委員会）が設置されている。その中で航空機および宇宙機に関する国際規格を扱うTC20は、国際投票権を有する13ヶ国（Pメンバー国）と投票権を持たない27ヶ国（Oメンバー国）から構成され、下部組織として11のSC（Sub Committee、分科委員会）が設置されている。（表1参照）

2. 概要

TC20第52回国際会議の開催場所および日程は次の通り。

●場所：SJAC会議室、東京都港区

●日程：2018年10月11日～12日

議長国アメリカをはじめ、日本、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、中国の7ヶ国から28名が参加、日本からは㈱IHI 濱崎国内委員長以下、三菱重工業㈱ 阿部委員、日本電気㈱ 阿部委員、住友精密工業㈱ 熊田委員と、SC16WG4㈱日立製作所 岡本部長、日本規格協会 遠藤氏、経産省国際標準課 新海氏およびTC20国内事務局 原野が参加した。

表1 ISO/TC20構成

ISO	議長国	幹事国	日本の参加地位
TC 20 航空機および宇宙機	アメリカ	アメリカ	P
SC 1 航空宇宙電気システムの要求事項	フランス	中国	P
SC 4 航空宇宙ボルト、ナット	ドイツ	ドイツ	P
SC 6 標準大気	ロシア	ロシア	N
SC 8 航空宇宙用語	ロシア	ロシア	N
SC 9 航空貨物及び地上機材	フランス	フランス	O
SC10 航空宇宙用流体システム及び構成部分	ドイツ	ドイツ	P
SC13 宇宙データ及び情報転送システム	中国	アメリカ	P
SC14 宇宙システム及び運用	アメリカ	アメリカ	P
SC16 無人航空機システム	アメリカ	アメリカ	P
SC17 空港インフラ	アメリカ	アメリカ	P
SC18 材料	フランス	フランス	P

3. 会議結果

(1) TC20ステータス報告

国際事務局より、TC20委員会および各分科委員会のステータス報告があった。

TC20国際議長については、昨年の第51回会議において今年末で任期が終了するAIAのRusty Rentsch氏の後任として、AIA宇宙システムVice PresidentのFrank Slazer氏が選任されていたものの、業務の都合により議長を引き受けることができなくなった旨の報告があり、改めて今年末までに国際議長を選出することとなった。

この他、TC20参加国としてエチオピアが新たにOメンバー国に加わり、クロアチアがOメンバーから脱退したとの報告があった。

分科委員会の状況としては、SC13の議長国がブラジルから中国に交代したとの報告があった。

なお、現TC20議長のRentsch氏が本会議を欠席したため、急遽、前TC20/SC4議長であったRalf Gevers氏が議長代役を務め、国際会議の議事が進行された。

(2) WPI (Work Program Item、業務プログラム項目)の確認

欧州のREACH規則により制限を受けている化学物質が、その製造過程や素材等で使用される材料に関連した17件の古い規格について、SC18分科委員会の元で確認していくことが了承された。

(3) SC1報告

SC1議長であるフランスのLouis Leblanc氏が2018年末で任期満了となり、後任にPaul Gill氏（フランス）が選出されたとの報告があった。

またSC1事務局よりアメリカに対し、Pメンバー国としてSC1に参加してもらいたい、との要請があった。

(4) SC4報告

アメリカおよび日本に対し、Pメンバー国としてSC4に参加してもらいたいとの要請があったが、日本は既にPメンバー国として参加しているため、要請の趣旨を再確認する必要がある。

(5) SC6報告

SC6事務局より現在のOメンバー国であるブラジル、フランス、ドイツ、韓国に対し、Pメンバー国への昇格の要請があった。またアメリカ、カナダ、日本に対してもPメンバー国として新規に登録するよう要請があった。並行して現在Pメンバー国であるカザフスタン、ウクライナおよびインドに対し、より積極的に会議に参加するよう促すことが合意された。

(6) SC8報告

TC20委員会よりSC8に対し、2019年10月末までに分科委員会の国際会議を招集するよう要求した。

(7) SC9報告

現SC9議長のJean-Jacques Machon氏（フランス）が病気で退任することとなり、エアバス社のAlonso Tabares氏を後任候補者とすることが承認された。

(8) SC14報告

SC14/WG4とSC6との間でJWG（Joint Working Group）を立ち上げ、特に高度30km～120kmの間の標準大気に関する規格について連携を取っていききたい、との報告があった。

(9) SC17報告

将来、新たに空港インフラと電気自動車の間に位置付けられるような地上施設に関する規格開発の可能性があるため、SC1によるレビューの必要性について共通認識を持った。

(10) SC18報告

TC20委員会よりSC18事務局に対し、分科委員会の検討対象範囲を見直し、本年10月末までに再投票に掛けるよう指示があった。

(11) その他

中国代表团より、「参加国の相互理解のため、毎年のTC20総会において各国の国内規

格化組織や国内活動に関するプレゼンをしてはどうか」との提案が出され、次回以降の国際会議にて1国ずつ自国の紹介を行うこととなった。

次回の第53回国際会議では、まず中国自身がプレゼンを行うことが決定された。



集合写真



会議風景

4. 今後のTC20国際会議について

次回以降の国際会議は、次の日程および場
所で開催される予定。

- 第53回；2019年10月14日～18日、
ロンドン（イギリス）
- 第54回；2020年9月21日～25日、
シアトル（アメリカ）

5. 所感

航空宇宙分野に関する国際規格に対し、ア
メリカがそれほど積極的な姿勢でなくなって

きている印象を受けた。国際規格の開発が自
国のメリットに繋がらないこと、航空宇宙防
衛分野の情報保護を強化しようとしているこ
と、等が原因ではないかと想像する。

一方で、中国はほとんど発言をしないもの
の、相変わらず大人数の訪問団（今回6名）
を派遣し、情報収集に力を入れている様子で
あった。

日本としても、今後の関与の仕方について
再考する必要があるのではないかと考える。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 技術部 部長 原野 清隆〕